

令和七年度

公立高等学校入学者選抜学力検査

国語

問題用紙

〔一〕 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の1～5について、——線をつけた漢字の部分の読みがなを書きなさい。

- 1 詳しい説明を省く。
- 2 問題点を絞る。
- 3 横綱が優勝を狙う。
- 4 自然の恩恵を受ける。
- 5 出席者に賛否を問う。

(二) 次の1～5について、——線をつけたカタカナの部分に当てはまる漢字を書きなさい。

- 1 皿を割ったことをアヤマる。
- 2 驚きのあまり一歩シリゾク。
- 3 人工衛星をウチユウへ打ち上げる。
- 4 コウフクな人生を送る。
- 5 彼女はゼンリヨウな人だ。

〔二〕 次の(一)～(五)の問いに答えなさい。

(一) 次の文中の「とても」と同じ品詞であるものを、あとのア～エの——線部分から一つ選び、その符号を書きなさい。

今日はとても寒い。

- ア 彼の實力はたいしたものだ。
イ 花が美しく咲いている。
ウ 図書館では静かにする。
エ 来月はもつと暖かくなる。

(二) 次の文中の「止まる」と活用の種類が同じ動詞を、あとのア～エの——線部分から一つ選び、その符号を書きなさい。

部屋の時計が止まる。

- ア りんごを半分に切る。
イ 会場が熱気を帯びる。
ウ 体育館の外に出る。
エ 友人と食事をする。

- (三) 次の文中の——線部分の様子を表すのに最も適当な四字熟語を、あとのア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

雪の結晶は、色々な形があり、それぞれ違っている。

- ア 臨機応変
イ 千差万別
ウ 日進月歩
エ 一刀両断

- (四) 次の漢文「花有清香月有陰」を、「花に清香有り月に陰有り」と読むことができるように返り点を付けたものとして、最も適当なものを、あとのア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

花有清香月有陰

- ア 花_レ有清香月_レ有陰
イ 花_レ有清香_二月_一有陰
ウ 花_二有清香_一月_レ有陰
エ 花_レ有清_レ香月_レ有陰

- (五) 国語辞典に載っている、「プログラム」という外来語の意味として、適当でないものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 計画や予定。
イ 演劇、音楽会、各種催し物などでの、出し物の組み合わせ。
ウ コンピューターに処理させる仕事の手順を、特定の言語や形式で書いたもの。また、それを作ること。
エ ある期日または日時から、他の期日または日時に至るまでの間。

〔三〕

次のAは、浅井了意の『浮世物語』の「鷹鴨の稲をくらふ難儀の事」という文章の前半の内容をまとめた先生の説明である。また、Bは、この文章の後半であり、Cは、この文章について話した二人の生徒と先生の会話である。AとCを読んで、(一)～(六)の問いに答えなさい。

A

先生

昔、ある時、主君が農民に、年貢を未納することなく、すべて納めさせようとした。これを聞いた浮世房という僧が、主君に対して、農民の現状を話しました。その内容は、主君の遊びである鷹狩りのためと称して、田の稲を食う鷹や鴨を追い払うことを禁じているから、農民は稲を食い尽くされてしまうのだ、ということです。Bの文章の始まりは、浮世房の話の続きで、終わりにには、その話を聞いた主君の行いの変化が書かれています。では、読みましょう。浮世房の話は、中国の故事から始まります。

(注)

鷹狩り＝飼いならした鷹などを放して、他の鳥獣を捕らえさせる狩猟。

B

むかし唐土の晋といふ国の大王、鷹をおもしろがりて多く飼はせらるるに、糠を餌にあたへらる。糠すでに

C

先生

Bの文章で、中国の晋の大王は、人民のために「よき事」をしました。それに対する人民の気持ちは、どの部分に表れていますか。

(注)

糠＝玄米などを精白する際に、果皮などが碎けて粉状になったもの。飼料などに用いる。

マツタケナクナルト 市に⁽¹⁾行きて買ひ求む。後には米と糠皆になりしかば、市に行きて買ひ求む。後には米と糠との値段おなじ物になる。臣下申すやう、『米と糠と同じ値段ならば、糠を求めずともすぐに米をくはせよ』と申されしを、君仰せありけるは、『米は人の食物なり。糠を食することかなはず。鷹は糠をくらふことなれば、米と糠と同じ値段なりとも、米にかへて鷹にあたへよ。百姓のためよき事なり』と仰せられし。米を出だして糠に替へしかば、国中にぎはひてよろこびけり。これを思ふに、国主の好み給ふ物ありとも、国家のために費ならず、百姓の痛み愁へにならざるを、こゝそ、仁政ともいふべきを、わがおもしろき遊びのため人をいたむる政は、よき事にあらざ」と申しければ、主君大に甘心ありて、その年の年貢ノ率ヲ低クシテ、数年來ノ未納分ノ年貢ヲ免除シタ免ゆるく、年頃の未進をゆるされたり。

ハルト 人民の気持ちが表示されているのは「X」の部分だと思います。

先生 よくできました。一方、主君は、浮世房の話

を聞くまでは、稲を食い尽くされた農民に対しても、年貢を未納することなく、すべて納めさせようとしていました。浮世房は、主君にどのような話をするにより、行いを改めさせたのでしょうか。

ナツキ 浮世房は、主君に、政治のあり方に対する批判

を受け止めてもらいやすくするために、主君と同じような立場にいた、晋の大王の政治を例として挙げるにより、話に説得力を持たせたいと思います。

先生 そのとおりです。よくわかりましたね。

- (一) ~~~~~線部分の「買ひ」の読みを、すべてひらがなで書きなさい。ただし、現代かなづかいでない部分は、現代かなづかいに改めること。

- (二) ———線部分(1)の「糠を餌にあたへらる」の意味として最も適当なもの、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 糠を餌として持て余しなされた。
イ 糠を餌としておやりになった。
ウ 糠を餌として召し上がった。
エ 糠を餌としてお売りになった。

- (三) ———線部分(2)の「米と糠との値段おなじ物になる」の理由として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 市場で糠が多く買われて量が減ったことにより、もともと安かった糠の値段が上がったから。

イ 市場で米が多く買われて量が減ったことにより、もともと安かった米の値段が上がったから。

ウ 米と糠の値段が高すぎるので、両方とも同じように値段を下げることを大王が臣下に命じたから。

エ 米と糠の値段が安すぎるので、両方とも同じように値段を上げることを大王が臣下に命じたから。

- (四) ———線部分(3)の「糠を求めずともすぐに米をくはせよ」という臣下の言葉に反応して、中国の晋の大王は、どのようなことを命令したか。その内容を、十五字以内で書きなさい。

- (五) ———線部分(4)の「大に甘心ありて」について、主君はどのような政治のあり方に感服したのか。六十五字以内で書きなさい。

- (六) Cの会話のXに当てはまる内容を、Bの文章中から六字で抜き出して、書きなさい。

〔四〕

次のⅠ、Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 次のAの文章を読んで、(一)～(四)の問いに答えなさい。

A

科学者の活動は、研究室のなかと外で、二つに分れていて、常に内側の、研究室のなかで科学者としての仕事があり、また多かれ少かれ研究室の外で、人間として、あるいは市民としての活動があるわけです。

研究室のなかでの科学者の仕事、そこになにかという方法があつて、どういう結果がそこから生じるかということ、これは科学の問題です。研究室で働いているときの科学者がどういう動機に動かされて、どういう興味にひかれて仕事をしているのか。これは科学者の心理の問題です。そして科学者仲間の外では、比較的知られていないことだろうと思います。

もちろん、日本ではかなりたくさんの科学者がおり、それ以上大勢の人が技術者として働いていますが、それらの人たちとそうでない非科学者の間には対話がなく、むしろそこになにかの深い溝があるようです。科学者の方では、いつてもわからないと思つてあきらめている。一方、科学者でない方の人たちは、科学的な論文とか命題の理解が困難だから、科学者の気持ちもわからない、と考えているのでしょう。しかし、科学者が仕事をするときの動機は、心理的人間的なものです。研究室のなかにい

ても人間が研究しているわけですから。それは本来そんなにわかりにくいものでも、神秘的なものでもなくて、適当な説明があれば誰にでもわかる性質のものでしょう。

科学者が研究するときの動機や主な興味の中心の一つには、一般的にいって知的好奇心があります。知的好奇心の対象は、世界の現実でしょう。自分の周りにある世界がどうなっているか、どういうものであるか、つまり世界を知りたいということです。これが知的好奇心で、自分自身の気持ちとか感情とか、喜びとか怒み^{うらみ}とらみとか、そういうものに対する興味とは別の種類の精神の働きです。科学者というのは、私がどうなっているか、私の気持ちがどうかということだけではなくて、おそらくそれ以上に周囲の世界に対する強い好奇心をもっている人々です。世界がおもしろくてしょうがない。現実の世界がおもしろいから、⁽²⁾いわゆる超現実的なことには興味⁽¹⁾がなくなる。たとえばおぼけが出るとかなんとかいってもあまり興味を示さないわけでしょう。

しかし科学者にとっては、世界が単におもしろいというだけではない。科学的研究の目的は、個別的な事実を知るだけではなくて、事実相互の關係の基本的な法則を見つけたことです。法則はもちろん自然のなかにある、たくさんの方則が、相互につながり合つて一つの体系的な世界をこしらえているわけで、それが、簡単にいうと、法則のかたちで表現された世界の構造です。その

秩序だった構造は美しい。自然のなかに含まれている法則の秩序は、美しく、調和的で、美的感動をよびます。
[X] その世界秩序というものが美しくなかったら科学者の喜びは半減するでしょう。

たとえば音楽をよく聴いたことのない人に、「どうしてお前は音楽を聴くのか」と聞かれて、「それは美しいからだ」と答えてもあまりよく通じないでしょう。それと同じように、科学者にとっては世界の秩序が美しいといっても、それに触れたことのない人にはほんとうにはよくわからないだろうと思います。

[Y] しかし、その美しさの性質は、感覚的に美しいというのとちよつとちがう。もつと抽象的な、知的な秩序の美しさということになるでしょう。たとえば古典熱力学の体系は、秩序整然としていて、それが役立つか役立たないかに係りなく、実に美しいといったようなものです。

(加藤 周一「加藤周一セレクション」による)

(注) 古典熱力学＝熱をエネルギーの一つの形と考えて、これと力学的な仕事との関係を研究する、古典物理学の一部門。

(一) 文章中の [X] に最もよく当てはまる言葉を、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア もし イ あえて
ウ なぜなら エ あいかわらず

(二) 文章中の [Y] に最もよく当てはまる言葉を、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 近代的 イ 楽観的 ウ 具体的 エ 断続的

(三) —線部分(1)とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 科学者は研究室の内外で活動しているにもかかわらず、非科学者にはそのことが比較的理解されていないこと。

イ 科学者は研究は神秘的なものだと考えているのに対し、非科学者は研究は神秘的なものではないと考えていること。

ウ 科学者は論文や命題を説明する機会がなく、非科学者は科学的な論文や命題を知ろうとしないこと。

エ 科学者は自分たちの心理を理解してもらうのを断念し、非科学者は科学者の心理を理解できないと考えていること。

(四) —線部分(2)について、筆者がこのように述べるのはなぜか。その理由を、「知的好奇心」という語を用いて、五十字以内で書きなさい。

国語四の問題の続きは7ページにあります。

Ⅱ 次のBの文章は、Aの文章と同じ著書の一部である。この文章を読んで、(五)、(六)の問いに答えなさい。

B

要するに、科学者は自然の構造が美しいので、その美しさにひかれて研究を続ける。こういう要素が強いので、これは技術者がはつきりした目標、つまり

Z 目標をめがけるのと大いにちがう点です。

研究室の科学者が、そういう世界の構造の調和、知的な秩序の美にひかれていけるとすると、奇蹟きせきを必要としないのは当然でしょう。奇蹟、あるいは超自然的な事件は、それが真実であるかないかは別として、美しくない。奇蹟とは、例外です。例外は多ければ多いほど、秩序の美しさを妨げます。

世界の秩序をある合理的なかたちで理解したいという欲求、またその秩序の美に対する一種の感受性は、非常に深く人間の心のなかに、永続的に組み込まれるものだから、科学者の動機はずっと続いて、ギリシアの昔から今日に及んでいるのだろうと思います。ですから、それがなくならないかぎり、科学の結果が役に立つか立たないかという観点だけから、科学を批判しても、あるいは評価しても、科学者の研究を止めたり、方向づけたりす

ることはできないだろうと思います。科学的研究というものは、詩人の詩的表現と同じように、人間の精神のたいへん深いところから出てきているものだから、ちやうど詩を廃止することができないように、科学的研究というものを廃止することはできません。

(注) 奇蹟＝奇跡。

(五) 文章中の Z に最もよく当てはまる言葉を、Bの文章中から四字で抜き出して、書きなさい。

(六) 線部分について、筆者がこのように考えるのはなぜか。Aの文章における科学的研究の目的についての筆者の考えを述べながら、百二十字以内で書きなさい。